

---

# 体温

雪うさぎ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

体温

### 【Zマーク】

Z9223C

### 【作者名】

雪つわわ

### 【あらすじ】

誰もが経験する悲しみ。喜び。試練。なつかしい恋。裏切り。初めて知ることができた大きな愛。

## 第1話 別れ（前書き）

もう誰も好きにならない。  
そう言って人はまた恋に落ちるもの。

## 第1話 別れ

一日酔い。

昨日のことが思いだせない。

ぐらぐらする頭の中をどうにかして。

真っ赤に充血した眼はまるでウサギ。

足が痛いな。

歩きすぎたのかな。

ヒールの高い靴のせい。

なんとなく覚えてるのは、あなたの横顔。

怒つてた？それとも泣いていた？

笑ってる顔が浮かばないのはなぜ？。

おやさいの指輪が見当たらない。

どこへいったのかな。

だらしがないのはいつものこと。

そのうち出でてくるでしょ。

携帯の電源が切れる。

充電がなくなつたのかな。

なんて

記憶を消そうとしても無駄。

嘘。

本当は覚えてる。

あなたと昨日行つた場所。

飲んだいとものお酒。  
あなたと話した  
くだらない世間話。

はじめは笑つて聞いてくれた。

だけどあなたはどこか違つてた。

私にはすぐにわかつた。

なにか言いたげな顔してる。

田がおよこでる。

わざとお酒を強くしてみせた。

「あんまり飲むと、また倒れるよ。」

眉間にシワをよせてあなたは言った。

そんな嫌な顔しないで。

もう倒れたりしないから。

あなたに恥ずかしい思つさせないから。

「お前も、就職しないの?」

「お嫁さんになるからしないのー。」

なぜ何も言わないの?  
ずっとあなたの目を見つめた。

「お前が身体震わせて  
倒れて  
唇、切って  
しゃべるのもなんか変になつた時  
はっきり言つて

もう無理だつて  
思つた。」

「友達にさ  
相談したんだ。  
やつぱり  
病気の彼女は  
付き合い大変だつて  
言われたよ。

お前を嫌いになつたんじゃない。

でも怖いんだ。

お前の病氣のこと

また目の前であんなになる姿見たら

俺

女の子として

お前を見れなくなると思ひ。

ごめん。

頭の中が真っ白になつた。

違つよ。

私

病気じやないよ。

友達に相談？

友達は何を知つてゐるの。

女の子として

見れなくなるの？

なんで。

泣いて

わめいて

指輪をあなたに投げつけた。

「バカにしないでよ！！」

—  
瞬

時が止まつたように  
静けさにつつまれた。

沈黙。

何かしやべって

それものこと  
取り消して。

まだ間に合ひながら

お願い。

やつ何度も心の中で繰り返した。

「すいません  
お会計おねがいします。」

あなたが沈黙を破った。

「……私まだ帰らないから。」

手をひいてよ。

「もう……」

「あんまり…飲み過ぎんなよ。」

あなたは

ため息まじつこなう言つて店を出ていってしまった。

それから焼酎のボトルを一人で一本あけた。

^ペッ…^

携帯の電源を  
切つた。

携帯が鳴らないのがわかつてた。

もうつかつてこない。  
電源を切つておけば  
変な期待をしなくてすむから。

それから何時間たつたのか  
店を出ていつも通る事のない道を歩いた。

フランフランと。

鼻歌を歌いながら歩いてみた。

そうしてみると、変な虚しれと、悲しみが込み上げてきて  
私の涙を止めなくさせた。

「なんでうへ…」

人の目も気にならなかつた。

もつ涙が出なくなるんじやないかと思ひほゞ

とにかく泣いた。

初めてずっと一緒にいたいと

初めてすべてを見せた人だった。

私はフラれた。

あまり覚えてない。

どれだけ歩いただろう

家にたどり着くまで  
どれだけ時間をかけただろう。

思えた人だったのに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9223c/>

---

体温

2011年1月9日15時01分発行